

# 連載 あるといい「防除の知恵袋」(7) 最終回

## —生産者の視点で「いつ・何を・どれだけ」—

JA 全農 営農販売企画部 TAC 推進課 課長

宗 和弘(そう かずひろ)

### はじめに

全農では、担い手農家に出向く担当者として TAC (Team for Agricultural Coordination) を設置し、日々担い手農家への訪問活動を続けている。訪問する際には、「積極的傾聴」を心がけ、様々な営農に関する悩みや要望を聞き取っている。そして、その聞き取った内容を JA に持ち帰って整理し、担い手のニーズを読み取っている。JA ではそのニーズに応じた施策を総合力を発揮して企画し、それを農家に提案し、誠実に対応している。そのことによって、農家の営農が発展し、さらには地域農業の振興に貢献してもらうこと、これが担い手農家に出向く担当者の目的・役割である。この目的の実現を目指し、平成 26 年度では全国で 274 の JA で 1,819 名の TAC が年間 96,086 軒の農家に対して 779,486 回の面談を実施した(表-1)。これらの面談内容には、様々な防除に関する悩みや相談、ヒントおよびニーズが含まれており、本稿では、これらを紐解くことによって、現場に役立つ防除情報の作り方や正確で効率的な防除指導のあり方を明らかにしようと試みてきた。

いうまでもなく、農作物を安定的かつ高品質に生産するためには、病害虫の防除が不可欠である。そして、その病害虫防除を成功させるためには、病害虫の生態や防

除法の特性を踏まえた根拠のあるデータに基づく正しい防除法が必要である。さらには、それをいかに病害虫防除の現場で正しく実行してもらうかが重要な鍵となる。その正しい実行にあたっては、実際に防除作業を行う農家が防除情報の意味を正しく理解してもらうことが最も重要である。そのためには、いかに農家にとってわかりやすく、現場でも実行しやすい具体的な提案が盛り込まれた情報をいかにタイムリーに正確に提供できるかにかかっている。

本稿(最終回)では、今まで整理してきた事項をもとに、防除の現場でどんな情報が求められ、またどんな情報が必要かを考えてみたい。

### I 作物別の防除情報の優等生「防除暦」の活用

TAC の面談情報を紐解くと、ほとんどの場合農家が作付けしている作物が主語となって、発生している病害虫に関する問い合わせや実際の防除に使用する農薬の選択の相談等が行われている。農家の経営は特定の作物の生産によって成り立っているため、当たり前といえは当たり前だが、防除に関する情報は作物別に作られているほうが使いやすいし農家にも喜ばれる。

このような農家に喜ばれる防除情報の代表が水稲や多くの果樹で作られている防除暦であろう。防除暦は地域

表-1 TAC の活動状況 (平成 26 年度末)

項目	全国計	北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
JA 数 ①	679	188	170	102	58	81	80
TAC システム入力 JA 数 ②	274	69	83	38	26	38	20
活動普及率 (%) ②/①	40	37	49	37	45	47	25
TAC システム入力 TAC 数	1,819	372	579	338	165	217	148
訪問担い手数	96,086	25,049	28,037	11,090	11,858	10,104	9,948
担い手面談数	779,486	152,839	190,842	176,817	93,382	77,452	82,528